

「加工・業務用野菜日本一産地確立事業」に関する業務委託仕様書

1 委託業務名

加工・業務用産地確立推進事業

2 目的

担い手の減少や高齢化等が進行する露地野菜産地において、生産者と実需者が連携し、生産から加工・販売までを一体的な生産体制のもとで行う「耕種版インテグレーション」の取組拡大のため、産地を担う大規模経営体が行う効率的な分業化の推進等により加工・業務用野菜産地の持続的な発展を図る。

3 委託業務の内容

本業務委託では、機械化・分業化による農作業効率化やコスト低減に繋がる生産方法等、生産工程における労働生産性や収益性といったデータを分析し提案・助言できる人材や農作業受委託及び実需者とのマッチングをコーディネートできる人材を育成することで、耕種版インテグレーションの取組の普及・拡大を図るものとする。

(1) 研修計画の策定及び実施

①研修計画の策定

(1) の②、③の研修内容について発注者と調整し研修計画を策定すること。
なお、策定した研修計画の周知については、発注者が行うものとする。

②集合型研修の実施

(1～3回程程度の研修会を想定、1回目はマッチング実地演習前に実施)

耕種版インテグレーションの取組を推進するための人材育成を目的とし、市町村・県・JAの担当者等を対象とした以下アからエの内容を含む研修を実施すること。

ア 耕種版インテグレーションの必要性

イ 農作業受委託を実施する経営的メリットの考え方

委託者側：時期別必要労働力の平準化、作業委託と経営規模拡大による経営収支の損益分岐の考え方、機械投資との比較など。

受託者側：機械投資の費用対効果の向上（機械稼働率の向上など）、相対的な経営面積の増加、時期別労働力の平準化・農閑期の新たなサービスの展開など。

ウ 受託作業を効率的に行う考え方

機械化の費用対効果（人件費等含む）の考え方、機械作業による効率化（機械化一貫体系による省力化、大型コンテナ等の活用など）、コスト低減の考え方（機械化に合わせた栽培体系によるコスト低減、ほ場の集約など）など。

エ デジタルツール等を活用した効率化

受託作業を行う上で活用できるツール（労務管理、ほ場管理、収穫予測、受委託マッチングなど）による効率化など。

③マッチング実地演習の実施（1回程度8月下旬予定：県域）

受託者及び実需者と繋がりを持ち需要を的確に把握できる人材や委託者・受託者・実需者のマッチングが行える人材育成を目的に、市町村・県・JAの担当者等を対象とした以下アからウの内容を含む実地演習を実施すること。

なお、委託者・受託者・実需者の対象者及び演習会場は発注者が選定し、演習に係る調整等は受注者が行うこととする。

ア マッチング会の実施及び運営方法

イ マッチング手法及び関連資料の作成手法（エントリーシート等）

ウ デジタルツール等を活用した効率化（マッチングプラットフォーム等）

(2) 業務に関する提案

受注者は、本仕様書に定めのない事項であっても本業務の目的を達成するためにより良い手法、アイデア等がある場合は、発注者へ積極的にこれを提案するものとする。

(3) 実績報告書の提出

受注者は、以下の項目を含めた報告書を作成し、発注者に報告すること。

なお、様式は任意とし、電子データでの提出とする。

①開催日時

②開催場所

③講師及びその所属

④受講者数

⑤講座名称及び内容

⑥研修資料（3の（1）②、③に係る資料一式）

(4) その他業務実施に当たって必要な事項

4 委託期間

契約締結の日から令和7年3月14日（金）まで

5 その他

(1) 本事業による成果物は発注者に帰属するものとする。

(2) 本仕様書に定めのない事項は、発注者と受注者で協議し定めることとする。